

現代に生きるキリストの顔 - キリスト教と環境論 -

京都大学 芦名定道

<テーマ>

聖書の中でキリストは様々な「顔」で描かれている。ここでは、パウロ書簡に見られる「宇宙的キリスト」から環境論へと考察を進めてみたい。

<内容>

1. はじめに
2. パウロ書簡の宇宙的キリスト
3. 宇宙的キリストから環境論へ
4. まとめ

<ポイント>

1. はじめに

1. 聖書あるいはキリスト教史におけるイエス像の多様性

- ・聖書におけるイエス像の多様性

旧約聖書：メシア預言（ダビデの子、人の子）

共観福音書：キリストの人性・史的イエス

ヨハネ福音書：神の子、ラビ

パウロ書簡：救い主（キリスト）、神の像、宇宙的キリスト

- ・ヤロスラフ・ペリカン 『イエス像の二千年』（講談社学術文庫）

「文化史の中のイエスの位置を描写している彼のさまざまな像の通観」

ラビ／歴史の転換点／異邦人たちの光／王の王／宇宙的キリスト／人の子
／真の像／十字架につけられたキリスト／世を統べる修道士／たましいの
花嫁／神人のモデル／普遍人／永遠を映す鏡／平和の君／良識の教師／
霊の詩人／解放者／世界に属する人

- ・現代聖書学の動向：共観福音書・ヨハネ福音書に関連して

市民社会の道德教師、古代の終末論的な宗教運動家、知恵の教師

2. ヨハネ福音書

- 3:2 ある夜、イエスのもとに来て言った。「ラビ、わたしどもは、あなたが神のもとから来られた教師であることを知っています。神が共におられるのでなければ、あなたのなさるようなしるしを、だれも行うことはできないからです。」

2. パウロ書簡の宇宙的キリスト

3. 「イエスは多くの顔を持つ」

では、現代人としてどんなイエス像に注目するのか（現代人にとっての意義）

4. 宇宙的キリスト

パウロ書簡と宇宙的キリスト

時間：創造以前から終末

空間：全宇宙、天と地

働き：計画（選び、定め）・支配・和解

階層・秩序：神 - キリスト - 万物（人間、教会を含む）

<エフェソ>

- 1:4 天地創造の前に、神はわたしたちを愛して、御自分の前で聖なる者、汚れのない者にしよう、キリストにおいてお選びになりました。
- 1:5 イエス・キリストによって神の子にしよう、御心のままに前もってお定めになったのです。
- 1:6 神がその愛する御子によって与えてくださった輝かしい恵みを、わたしたちがたたえるためです。
- 1:7 わたしたちはこの御子において、その血によって贖われ、罪を赦されました。これは、神の豊かな恵みによるものです。
- 1:8 神はこの恵みをわたしたちの上にあふれさせ、すべての知恵と理解とを与えて、
- 1:9 秘められた計画をわたしたちに知らせてくださいました。これは、前もってキリストにおいてお決めになった神の御心によるものです。
- 1:10 こうして、時が満ちるに及んで、救いの業が完成され、あらゆるものが、頭であるキリストのもとに一つにまとめられます。天にあるものも地にあるものもキリストのもとに一つにまとめられるのです。
- 1:11 キリストにおいてわたしたちは、御心のままにすべてのことを行われる方の御計画によって前もって定められ、約束されたものの相続者とされました。
- 1:12 それは、以前からキリストに希望を置いていたわたしたちが、神の栄光をたたえるためです。

<フィリピ>

- 2:6 キリストは、神の身分でありながら、神と等しい者であることに固執しようとは思わず、
- 2:7 かえって自分を無にして、僕の身分になり、人間と同じ者になりました。人間の姿で現れ、
- 2:8 へりくだって、死に至るまで、それも十字架の死に至るまで従順でした。
- 2:9 このため、神はキリストを高く上げ、あらゆる名にまさる名をお与えになりました。
- 2:10 こうして、天上のもの、地上のもの、地下のものがすべて、イエスの御名にひざまずき、
- 2:11 すべての舌が、「イエス・キリストは主である」と公に宣べて、父である神をたたえるのです。

<コロサイ>

- 1:15 御子は、見えない神の姿であり、すべてのものが造られる前に生まれた方です。
- 1:16 天にあるものも地にあるものも、見えるものも見えないものも、王座も主権も、支配も権威も、万物は御子において造られたからです。つまり、万物は御子によって、御子のために造られました。
- 1:17 御子はすべてのものよりも先におられ、すべてのものは御子によって支えられています。
- 1:18 また、御子はその体である教会の頭です。御子は初めの者、死者の中から最初に生まれた方です。こうして、すべてのことにおいて第一の者となられたのです。
- 1:19 神は、御心のままに、満ちあふれるものを余すところなく御子の内に宿らせ、
- 1:20 その十字架の血によって平和を打ち立て、地にあるものであれ、天にあるものであれ、万物をただ御子によって、御自分と和解させられました。

3 . 宇宙的キリストから環境論へ

5 . キリストの救済の有する宇宙的な視野 エコシステムにおけるキリスト 羊飼いのクリスマスから羊・家畜のクリスマスへ

<ルカ福音書>

- 2:8 その地方で羊飼いたちが野宿をしながら、夜通し羊の群れの番をしていた。
- 2:9 すると、主の天使が近づき、主の栄光が周りを照らしたので、彼らは非常に恐れた。
- 2:10 天使は言った。「恐れるな。わたしは、民全体に与えられる大きな喜びを告げる。
- 2:11 今日ダビデの町で、あなたがたのために救い主がお生まれになった。この方こそ主メシアである。
- 2:12 あなたがたは、布にくるまって飼葉桶の中に寝ている乳飲み子を見つけるであろう。これがあなたがたへのしるしである。」
- 2:13 すると、突然、この天使に天の大軍が加わり、神を賛美して言った。
- 2:14 「いと高きところには栄光、神にあれ、/地には平和、御心に適う人にあれ。」
- 2:15 天使たちが離れて天に去ったとき、羊飼いたちは、「さあ、ベツレヘムへ行こう。主が知らせてくださったその出来事を見ようではないか」と話し合った。
- 2:16 そして急いで行って、マリアとヨセフ、また飼葉桶に寝かせてある乳飲み子を探し当てた。
- 2:17 その光景を見て、羊飼いたちは、この幼子について天使が話してくれたことを人々に知らせた。
- 2:18 聞いた者は皆、羊飼いたちの話をも不思議に思った。
- 2:19 しかし、マリアはこれらの出来事をすべて心に納めて、思い巡らしていた。
- 2:20 羊飼いたちは、見聞きしたことがすべて天使の話したとおりだったので、神をあがめ、賛美しながら帰って行った。

6 . キリスト像と環境論

イエス・キリストは人間のためだけに誕生したのではない
動物も立ち会ったクリスマスの出来事

7. 「キリストに倣う」(imitatio Christi) : キリスト像の実践的意義

キリストにおける和解

人間における和解の使命

地の僕(耕す=仕える)、連帯と責任

<創世記>

2:4b 主なる神が地と天を造られたとき、

2:5 地上にはまだ野の木も、野の草も生えていなかった。主なる神が地上に雨をお送りに
ならなかったからである。また土を耕す人もいなかった。

2:6 しかし、水が地下から湧き出て、土の面をすべて潤した。

2:7 主なる神は、土(アダマ)の塵で人(アダム)を形づくり、その鼻に命の息を吹き入
れられた。人はこうして生きる者となった。

2:8 主なる神は、東の方のエデンに園を設け、自ら形づくった人をそこに置かれた。

4. まとめ

8. 環境論の悲観的未来像を越えて、前に進むために

ローマ・クラブの提言

9. 希望のネットワークと宇宙的キリスト

<イザヤ書>

11:6 狼は小羊と共に宿り / 豹は子山羊と共に伏す。子牛は若獅子と共に育ち / 小さい子
供がそれらを導く。

11:7 牛も熊も共に草をはみ / その子らは共に伏し / 獅子も牛もひとしく干し草を食らう。

11:8 乳飲み子は毒蛇の穴に戯れ / 幼子は蝮の巣に手を入れる。

11:9 わたしの聖なる山においては / 何ものも害を加えず、滅ぼすこともない。水が海を
覆っているように / 大地は主を知る知識で満たされる。

<文献>

1. M.J.ボーグ 『イエス・ルネサンス』(教文館)

2. バートン・L・マック 『誰が新約聖書を書いたのか』(青土社)

3. ドネラ・H・メドウズ他 『限界を超えて』(ダイヤモンド社)

4. 高木仁三郎 『市民科学者として生きる』(岩波新書)

5. 芦名定道 『宗教学のエッセンス』(北樹出版)

『改訂増補 現代に生きるキリスト教』(共著・教文館)